

地域が誇る人材育成へ

耕人塾第9期生入塾 県内17中高から25人

中高校生の人間力を育む「耕人塾」(木村民男塾長)の第9期開塾式が18日、東松島市の矢本東市民センターで行われた。本年度は石巻地方をはじめ、仙台市や登米市の17中・高校から新規13人を含み25人が入塾。昨年度に引き続き、「世界に誇れる石巻地域にしよう」発信「未来へ」をテーマに「あいさつ・清掃・ごみ拾い」の実践を通し、主体性や創造力を育んでいく。地域社会に貢献でき

る高い志を持った人材を育成することを目的とした同塾は、平成24年度から毎年実施。教育学委員として石巻専修大学の教授や学生、地域の小中学校教諭、民間企業、団体が協力している。

例年は5月の開塾だが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で先送りし、6月に塾生を再募集した。

開塾式のあいさつで木村塾長は「あいさつ・清掃・ごみ拾いの3つを継続することで地域



主体的行動で創造力を高める意義を説く
木村塾長

も明るくなり、世の中も変わる。主体的に活

動し、楽しさを見出しながら創造力を高めてほしい」と成長に期待した。

初日は、同塾1期生で石巻信用金庫に勤める高橋智幸教学委員が

「耕人塾と私 過去・現在・未来」と題して講話。塾で学んだことが、今の自分の成長にどのように生かされているかを語り、塾生たちが耳を傾けた。その後、グループ単位で自己紹介や個人目標の設定、世界に誇れる石巻にするために自分のできることの検討などを行った。

今後は月1〜2回の頻度で塾を開き、各個人が設定した目標に対する実践活動や成果発表を行う。活動内容や場所は、新型コロナウイルスの感染拡大に応じて柔軟に対応。12月12日に閉塾式を行う予定。

【山口紘史】